

意識調査から見た保育科の学生像

——保育科学生におけるライフスタイルの変化Ⅱ——

福 川 須 美

Life-Styles of Preschool Education Department Students at
Komazawa Women's Junior College / Ⅱ : Their Self-Images

Sumi FUKUKAWA

はじめに

「最近の学生たちは保育職を敬遠し、一般企業に就職する傾向が強くなってきた」といわれるが、実際、本学の平成2年度の卒業生を送り出した時には、4割以上もの学生が一般企業に就職し、保育職に就いたのはかろうじて5割そこそこに過ぎなかった。事態は予想をはるかに越えて進展しているのかもしれない。保育者養成の立場にある者のひとりとして、このまま看過してはいられないというのがそのときの正直な感想だった。

保育科学生のひとりひとりが、なにを感じ、なにを考えているか、健康、生活、意識など、多面的な角度から探ってみたい。そしてその研究成果を教育の場に活かすことができれば、保育者養成にとってもプラスになるに違いない。そこで、医学的視野(高木庸一)、心理学的視野(天野珠子)、社会学的視野(福川須美)という異なる角度からアプローチして、それを総合してみようということになった。まだどのように展開できるか、着手したばかりで未知数の部分が多いが、とりあえず現時点の研究結果を公表し、今後の足がかりとしたい。

さて、いったい「保育職離れ」はいつから始まったのか、どのように進行しているのか、とりあえずそれを調べることから第一歩を踏み出すことにした。本学の状況と同時に、全国的な傾向や他校の保育科学生の状況も知り得た範囲で紹介し、本学の保育科学生の特徴を把握する一助としたい。そしてそれらの時系列的変化の延長上にいる現在の学生の実態を捉えてみたい。

学生の実態調査は、折しも日本私立短期大学協会が保育系短期大学の学生意識調査を実施し、本学も協力したことが直接の契機となった。日短協の調査は1991年度の新入生を対象として入学時と卒業時の2回にわたって調査を実施し、学生たちの志望動機や資格取得の希望、卒業後の進路、保育職への態度等、2年間の変化を追う予定になっている。また、それ以前1990年11月に、私は当時の本学の2年生に対して実習と就職に関する調査をおこなっている。ここでは以上の調査結果をもとに、本学の保育科学生の一側面を捉えてみたいと思う。

(1) 保育科学生の就職と資格取得の推移

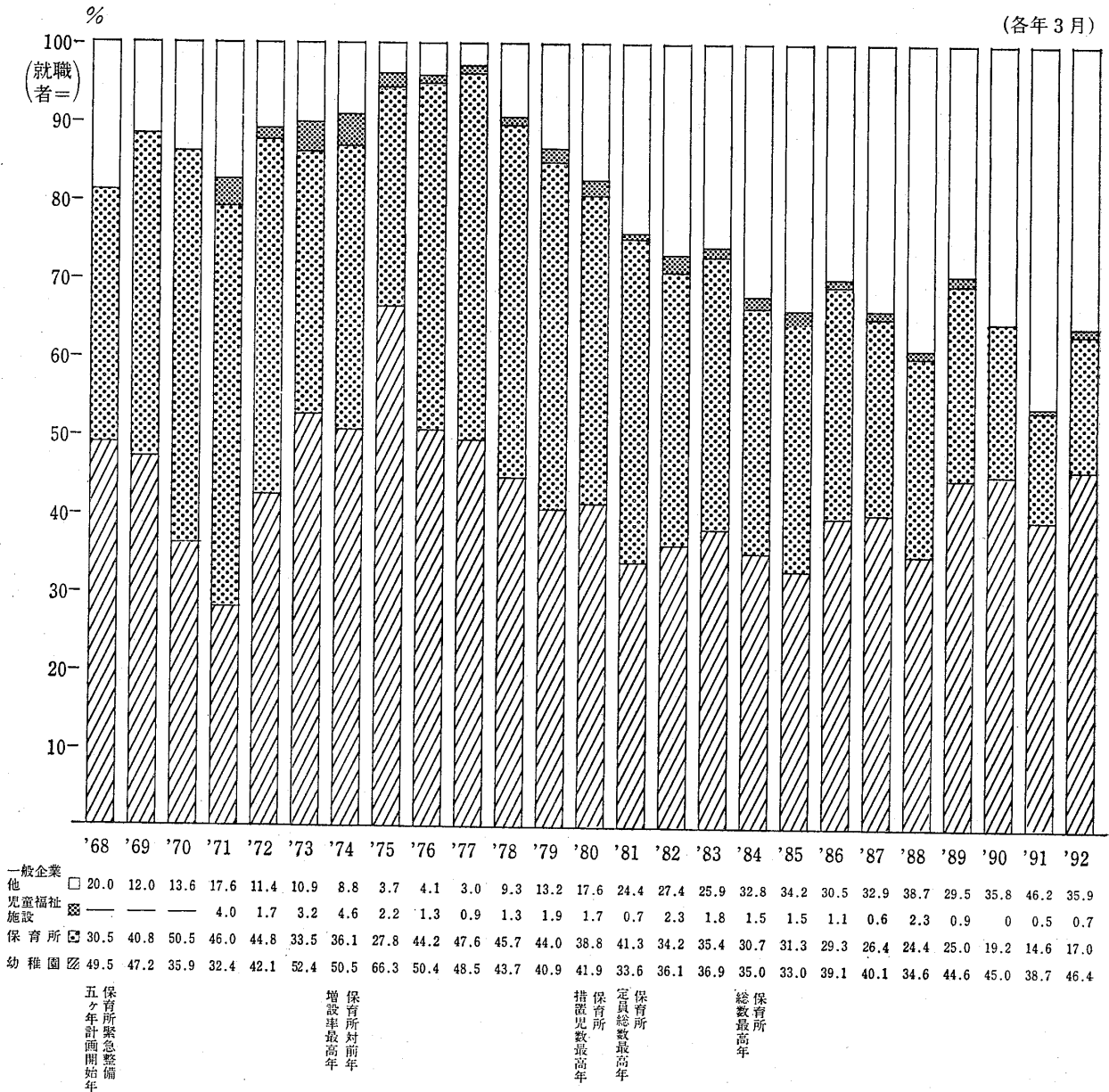
第1図は本学保育科卒業生のおよそ20数年間の就職動向である。

最初の3～4年は保育科が短大として再出発し学生数も急速に増加していく時期である。図には記載していないが、この頃の就職率は変動が大きく、卒業時点では地方出身の未定者が多く郷里に帰ってから就職する者も数十人にのぼった。

やがて1970年代初期には学生数も安定し、いわば保育科の最盛期を迎える。70～72年は幼稚園よりも保育所への就職者が多く、また、70年代前半は養護施設など児童福祉施設への就職者が10人を越えた唯一の時期である。

71年から77年にかけて、幼稚園、保育所、施設を合わせた保育職への就職率は就職者の80%台から90数%台へと上昇し、保育者養成校としての面目は躍如たるものがあった。この時期は1969年発表の国の保育所緊急整備5

第1図 駒沢女子短期大学保育科卒業生の就職状況の推移



第1表 全国保母養成大学・短大卒業生の就職状況

(厚生省母子福祉課調査) %

| 就職先 | 年 | 1975 | 1976 | 1977 | 1978 | 1979 | 1980 | 1982 | 1983 | 1984 | 1985 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 |
|-------------|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 保 育 所 | | 43.1 | 38.2 | 37.2 | 36.2 | 34.0 | 34.3 | 31.3 | 25.9 | 25.8 | 27.4 | 30.7 | 30.0 | 30.9 | 30.8 | 34.5 |
| 児 童 福 祉 施 設 | | 6.5 | 5.2 | 4.9 | 4.7 | 9.0 | 4.7 | 4.7 | 3.1 | 3.3 | 3.4 | 3.2 | 3.2 | 2.8 | 2.9 | 2.4 |
| 児 童 事 業 | | 0.7 | 1.4 | 1.3 | 1.0 | 1.5 | 1.5 | 1.7 | 1.1 | 1.0 | 1.0 | 0.9 | 0.8 | 0.9 | 0.7 | 1.0 |
| その他の福祉施設 | | | | | | | | | 2.5 | 2.6 | 3.1 | 2.7 | 3.5 | 3.8 | 3.1 | 3.0 |
| 幼 稚 園 | | 49.7 | 55.2 | 56.6 | 58.1 | 55.5 | 59.5 | 62.3 | 67.4 | 67.3 | 65.1 | 62.5 | 62.5 | 24.9 | 24.9 | 25.8 |
| そ の 他 | | | | | | | | | | | | | | 36.7 | 37.6 | 33.3 |
| 卒 業 者 数 | | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 合 計 | | 23,575 | 27,062 | 30,131 | 30,390 | 31,355 | 31,036 | 31,753 | 34,043 | 32,884 | 31,402 | 25,906 | 28,157 | 27,495 | 26,604 | 26,182 |

注) 1987年以降は短大のみの統計、その他の福祉施設は、精神薄弱者援護施設、身体障害者援護施設、老人福祉施設の合計。

カ年計画に引き続いて、全国各地に続々と保育所が増設された頃である。いわば保育所増設ラッシュ、保育所保母は引っ張りだこの時代でもあった。

78年から本学の一般企業への就職者は徐々に増え始めるが、社会的には働く母親が増加の一途をたどり、1980年には保育所措置児数は戦後最高を記録する。本学卒業生の保育所保母への就職者も40%を越え、幼稚園就職者を上回る時期が2～3年続くなど、全体としては、なお保育所保母への高い就職率が数年続いた。

しかし幼・保を合わせた保育職就職率は一般企業への就職者増に押されて徐々に減少し、81年には就職者の70%台に下がった。この頃、日本経済全体は79年から第2次石油ショックの不況期を迎え、国の行財政改革の方向は「小さな政府」をめざして、福祉見直しへと方向転換した。すでに1970年代後半から増設率が鈍り始めていた保育所では、入所措置の「適正化」がいっそう強化され、84年頃から保育所の定員割れ現象が顕著になってくる。さらに出生率の減少がそれらに輪を掛け、保育所増設は頭打ちの時代を迎える。

この時期本学の就職率全体は8割台から7割台に落ちこみ、保育所保母への就職者は減少に転じ、30%から20%そして90年代にはついに10%台にまで減少する。一方経済不況は数年も経ずに好況に転じ、一般企業への就職率は逆に10%台から30%台へと増加していく。その結果、保育職全体の就職率は幼稚園就職者の漸増に支えられてかろうじて60%台を維持しているのが現状といえるだろう。

以上のように保育をとりまく社会的条件はこの20数年の間に大きく変容し、それが本学学生の就職状況に直接・間接に影響をあたえていることは間違いないだろう。それにしても本学学生の近年の急速な保育所離れには本学独自の要因も考慮しなければなるまい。

ところで、保育科の教育課程では幼稚園教諭免許と保母資格の両方を取得できるが、この資格の取得者の動向もあわせて見ておこう。まず、幼稚園教諭免許は保育科発足以来ほとんど全員が取得している。つまり99%、98%という時代が10数年間続いている。しかし、82年頃から多少減少して95～6%に、そして89年と91年には90%を切っている。

一方、保母資格取得者の方はほぼ90数%と、幼児取得者よりも常に2～3%低い率ではあるが、90%台を維持してきた。しかし、80年代には幼児取得者との差が少し広がり、増減しながらも80年代後半は90%を切る年が増えていく。そして最近4年間はさらに大幅に減少し、今年の卒業生の保母資格取得者は60%にも達しなかった。

かくて最近の学生の保育所離れは資格取得の段階から始まっているようである。ただし、現在在学中の学生の保母資格取得率は保育実習履修者数等から70%台への回復が予想され、幼児取得者も8割を越える見込みである。しかし、いずれにしても往年の率からすれば低下傾向は顕著である。

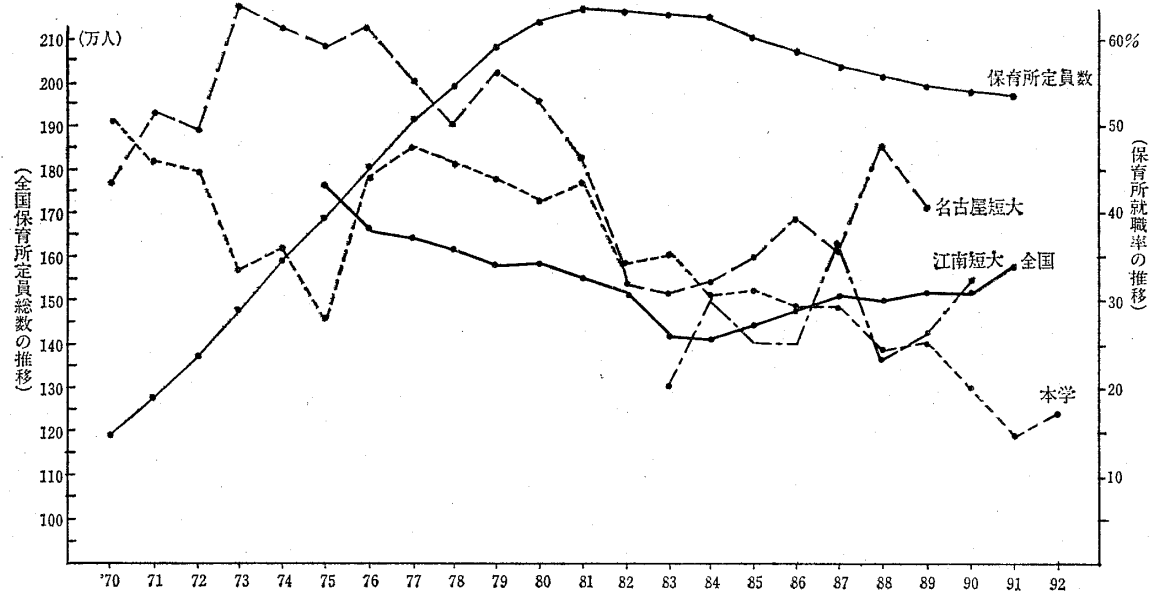
ふりかえってみると最近の数年は保育科学生数の大幅な縮小がおこなわれ、校舎の移転や学科増設など学内の事情は大きく変化した。就職室からみれば英語英文科の開設は、生活科と保育科の2科のみの時代とは異なり、一般企業への就職者が大幅に増加することを意味する。当然、一般企業の情報は多くなる。加えて企業の就職戦線の幕は保育関係よりもずっと早く切って落とされる。保育職か一般企業かと迷う学生にとって、早く決まった企業への就職を捨てがたくもなるだろう。本稿(4)のところで詳述するが、入学時の保育職希望から企業就職へと変更した学生の理由には「企業が先に決まったから」が非常に多いのである。

いったい保育所離れは本学のみの傾向であろうか、それとも保育系短大に共通の傾向であろうか。第1表は厚生省の発表による保母養成大学・短大卒業生の就職状況の推移である。統計の基準が統一されていないため幼稚園就職者等の十分な比較ができないが、本学の学生を最近の短大の保育科学生の全国平均像と比較すると、保育職以外への就職率は平均に近く、幼稚園への就職率は平均を上回り、保育所への就職率は平均以下、児童福祉施設等への就職者は極く稀れということになる。長期間の比較が可能な保育所への就職率の変遷を見ると(第2図)、全国的には保育所離れはすでに過去の出来事になり、むしろ最近増加傾向にある。近年保育所数や入所児数は減少しているが、乳児保育、障害児保育、長時間保育など保育要求の多様化に応じる保母の需要増が背景として考えられるだろう。本学の最近の保育所離れは全国的傾向とは異なる傾向であることがわかる。

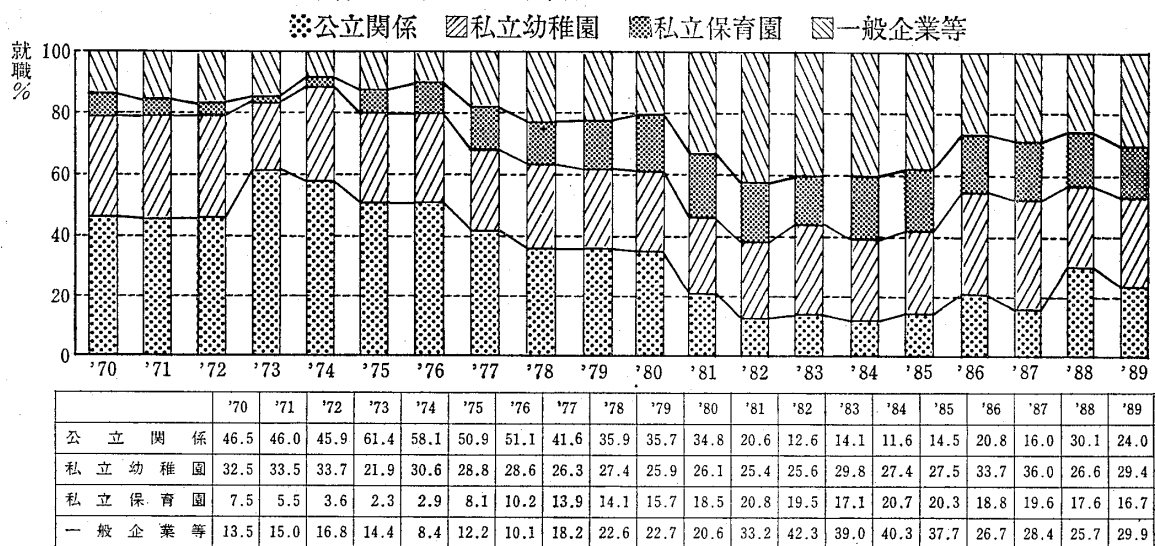
さて、平均は平均として、次に具体的な比較対象として他の短大の保育科学生の動向をみてみよう。たまたま手持ちの資料のなかに名古屋短期大学と江南短期大学の事例があり本学とは傾向を異にする例として挙げてみた(第3図、第4図)。

名古屋短大の場合は本学が幼稚園就職者の多かった73年から77年の間、公立保育所等への就職者がもっとも多い。公立関係が頭打ちになるころから私立保育園への就職が増加し、全体として幼稚園よりは保育所への就職者の方が多し短大である。80年代前半は一般企業の就職率が4割近かったが、後半は保育職が盛り返して7割に回

第2図 保育所就職率の推移・全国および三校の比較



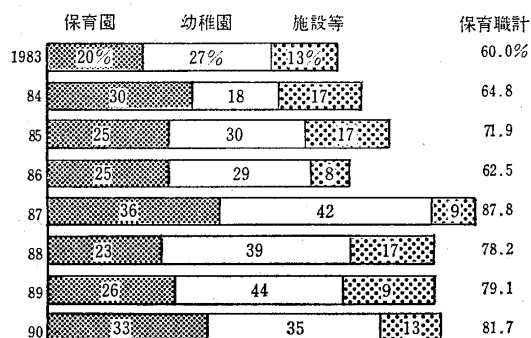
第3図 名古屋短期大学保育科卒業生の就職状況



注) 資料出所: 全国保母養成セミナー (1990年度) 分科会資料 (参考資料No.4)

(%)

第4図 幼児教育学専攻学生の進路(江南短大)



注) 資料出所: 第3図に同じ (参考資料No.3)

第2表 出身高校

| | 公立普通高校 | 私立普通高校 | 公立その他 | 私立その他 | その他 | 計 |
|--------|-----------|------------|---------|---------|---------|-------|
| 1991 | 93(52.6%) | 82(46.3%) | 2(1.1%) | 0(0.0%) | 0(0.0%) | 177 |
| 1992 | 75(41.7%) | 101(56.1%) | 3(1.7%) | 1(0.6%) | 0(0.0%) | 180 |
| 全国 (%) | 63.1 | 27.1 | 6.6 | 2.4 | 0.8 | 100.0 |

第3表 幼児教育機関

| | 幼稚園 | 保育所 | 保育所・幼稚園 | その他 | 合計 |
|--------|-----------|----------|---------|--------|------------|
| '91 | 145(81.9) | 26(14.7) | 5(2.8) | 1(0.6) | 177(100.0) |
| '92 | 153(85.0) | 21(11.7) | 6(3.3) | 0(0.0) | 180(100.0) |
| 全国 (%) | 60.2 | 24.9 | 14.4 | 0.5 | 100.0 |

復し、一般企業は3割を切っている。

本学の場合は公立と私立の保育園への就職比率は1983年以降の統計ではほとんど私立が公立の就職率を上回っている。

つぎに同じく愛知県の江南短大の場合は保育職の就職率はむしろ最近の方が増加しており、ほぼ8割の線を持している。年により多少変動しているが、幼稚園に4割、保育所に3割、施設に1割が就職しており、施設の就職率が高いのが特徴である。江南短大の報告によれば、保育職就職者多数の背景には、専門科目教育の重視や実習の重視(2年間5回、事前事後指導)、少人数ゼミ(20名の学生に教員1名)によるきめこまかな指導、就職委員会による就職指導などの努力があるという。

保育系短大の卒業生の就職状況は以上のように具体的には学校毎に状況が大きく異なっているが、現在の全国平均としては保育所30数%、幼稚園20数%、施設数%、その他30数%と押さえられよう。卒業生の大多数が保育者になった時代からすれば保育職就職率は低いと感じられ、また、7割近くが保育職であればまああではないかと受け取ることもできるだろう。しかしいずれにしろ、本学の保育科学生の進路の多様化は否めない事実である。

次に、現在在学中の学生たちはどう考えているだろうか。以下のような2回の調査をもとに考察した。

〔調査の枠組み〕

- ① 調査対象 1991年度入学 駒沢女子短期大学保育科学生 177名
1992年度入学 駒沢女子短期大学保育科学生 180名
- ② 実施時期 1991年4月下旬
1992年4月下旬
- ③ 調査方法 質問紙法により、全員回収。
- ④ 調査内容 日本私立短期大学協会保育科研究委員会作成の「保育科系短大学生意識調査」の調査内容に準拠した。

(2) 調査結果の概要(単純集計の結果)

第3表以下、本学の調査結果とあわせて1992年の日短協全国調査結果の割合を%のみではあるが表の右端に記載しておいた。(全国調査の対象は41校2050人)

① 学生のプロフィール

まず、本校入学者の出身高校は公立普通高校と私立普通高校にほぼ二二分されるが、比率は91年と92年では逆転している(第2表)。

幼児期の教育機関は幼稚園が8割以上であり、保育所に通った学生は各年10%台である(第3表)。全国調査では地域差が大きく、平均が前者60%、後者25%である。

乳幼児の世話をしたり遊んだ経験のない学生が1991年16.9%、1992年23.3%(全国19.4%)おり、家事の分担を経験しない学生が各年8.5%、14.4%いる。いずれも91年より92年の方が多い。

共同研究Ⅲ・天野珠子「保育科学生の保育者イメージと自己イメージ」で詳しく分析されているが、保育者という職業に対するイメージ項目として圧倒的多数が「子どもが好きでなければ働まらない」を選び、保育者として必要と思うこととしても「子どもを理解する」「子どもが好きである」が第一位、自分が保育者に向いている理由としても「子どもが好きである」と答える学生たちの「子どもが好き」の内容は、子どもとの具体的かつ豊富な交流経験から導かれたものとはいえず、多分に感覚的、概念的な意識であるといえそうである。今回はできなかったが、「子どもが好き」の内容に今一步踏み込んだ調査の必要を感じさせられる。なお、実習の経験回数が増えていくにつれて、「子どもが好き」の程度が変化し、子どもの見方も深まることについては、高田短期大学の学生調査の事例がある(『子どもが好き』について考える)成田朋子 保母養成協議会第29回研究大会発表論文集)

学生生活全体については「2年間で保育者としての知識を学びたい」が約半数、「大学生活をエンジョイしたい」がこれに続き、3位は「大学生としての教養を深めたい」である。「クラブ・サークル活動がしたい」は4%にも満たない少数派である。大学生活をエンジョイすることの中身は一体何か、これもより詳しく知らなければ意味がなさそうである。最後に「特に考えてない」学生が数名いるのが気になるところである(第4表)。

② 志望学科について

志望学科は保育科第一志望だった者が各年80%余りだが、92年の方が保育科以外を第一志望とする学生が3.6%減少している(第5表)。92年入学生の保育科以外の志望学科は幼児教育科、児童学科、初等教育科、児童福祉科、社会福祉科、心理学科、家政科、看護科など保育に関連した学科と、英語英文科、音楽科、情報処理科、秘書科、被服科、史学科、社会学科等、保育とは関連の薄い学科とが半々、あわせて34名(18.9%)である。

③ 保育科志望動機

第6表のとおり、91年と92年では1位と2位の順位が入れ替わった。92年の「保育者として仕事をしたい」と

第4表 学生生活のおくり方について

| 選択項目 | '91年 (%) | '92年 (%) | 全国 % |
|---------------------|------------|------------|-------|
| ①2年間で保育者としての知識を学びたい | 88(49.7) | 89(49.4) | 62.7 |
| ②大学生生活をエンジョイしたい | 60(33.9) | 38(21.1) | 21.3 |
| ③大学生としての教養を深めたい | 14(7.9) | 27(15.0) | 10.1 |
| ④クラブ・サークル活動がしたい | 4(2.3) | 7(3.9) | 2.1 |
| ⑤特に考えてない | 2(1.1) | 5(2.8) | 1.9 |
| ⑥その他 | 7(4.0) | 10(5.6) | 1.2 |
| N.A. | 2(1.1) | 1(0.6) | 0.7 |
| ①+④ | — | 3(1.6) | — |
| 合 計 | 177(100.0) | 180(100.0) | 100.0 |

第5表 志望学科

| | '91年 | '92年 | 全国% |
|---------|----------------|----------------|---------|
| 保育科第一志望 | 146 (84.2) | 146 (81.1) | (89.0) |
| その他第一志望 | 27 (15.3) | 34 (18.9) | (10.6) |
| N A | 1 (0.5) | 0 (0.0) | (0.4) |
| 計 | 177 (100.0) | 180 (100.0) | (100.0) |

第6表 保育科志望の理由

| | '91年 (%) | '92年 (%) | 全国 % |
|---------------------|------------|------------|-------|
| ①子どもが好き | 54(28.7) | 84(46.7) | 38.3 |
| ②保育者として仕事をしたい | 61(32.4) | 45(25.0) | 32.4 |
| ③資格をとっておけば将来の生活に役立つ | 35(18.6) | 24(13.3) | 16.6 |
| ④自分の子どもを育てるのに役立つ | 22(11.7) | 19(10.6) | 6.7 |
| ⑤家族にすすめられた | 5(2.7) | 4(2.2) | 0.6 |
| ⑥先生にすすめられた | 2(1.1) | 0 | 1.1 |
| ⑦友人にすすめられた | 0 | 0 | 0.0 |
| ⑧ただなんとなく | 2(1.1) | 0 | 0.9 |
| ⑨その他 | 7(3.7) | 4(2.2) | 2.6 |
| N.A.不明等 | | | 0.8 |
| 合計 | 177(100.0) | 180(100.0) | 100.0 |

第7表 資格取得の予定

| | '91年 (%) | '92年 (%) |
|-------------|------------|------------|
| ①幼稚園教諭免許のみ | 171(96.6) | 36(20.0) |
| ②保育資格のみ | | 7(3.9) |
| ③幼・保 両 方 | | 120(66.7) |
| ④取らない | 2(1.1) | 1(0.5) |
| ⑤取れば取りたい | 4(2.3) | 0(0.0) |
| ⑥取る(幼・保不明者) | | 16(8.9) |
| 計 計 | 177(100.0) | 180(100.0) |

第8表 資格取得の理由

| | '91年 (%) | '92年 (%) | 全国% |
|---------------|------------|------------|-------|
| ①保育者として仕事をしたい | 106(60.6) | 100(55.9) | 68.5 |
| ②将来の生活に役立つと思う | 62(35.4) | 70(39.1) | 28.7 |
| ③その他 | 1(0.6) | 6(3.3) | 1.5 |
| N.A. | 6(3.4) | 3(1.7) | 1.3 |
| 合 計 | 175(100.0) | 179(100.0) | 100.0 |

第9表 保育職就職希望の有無

| | '91年 (%) | '92年 (%) | 全国% |
|----------|------------|------------|-------------------|
| ①は い | 112(63.6) | 117(65.0) | 77.2 |
| ②いいえ | 10(5.6) | 13(7.2) | 5.1 |
| ③まだわからない | 55(31.1) | 50(27.8) | 17.6 (N.A.0.1) |
| 合 計 | 177(100.0) | 180(100.0) | 100.0 |

第10表 希望就職先(保育職希望者)

| | '91年 (%) | '92年 (%) | 全国 % |
|-----------|-----------|------------|-------------------|
| ①幼稚園 | 77(65.3) | 66(56.4) | 50.7 |
| ②保育所 | 24(20.3) | 30(25.6) | 21.6 |
| ③福祉施設 | 5(4.2) | 2(1.7) | 11.0 |
| ④①~③以外の職場 | 3(2.5) | 5(4.3) | 2.7 |
| ⑤まだわからない | 9(7.6) | 14(12.0) | 11.1 (N.A.2.9) |
| 合 計 | 118 | 117(100.0) | 100.0 |

答えたのは25%、「子どもが好き」というやや漠然とした志望動機の学生が46.7%と最も多くなっている。以下「資格を取っておけば将来の生活に役に立つ」13.3%、「自分の子どもを育てるのに役に立つ」10.6%と続き、この4項目で95.6%を占める。親・教師・友達の勧め、ただなんとなくといった回答は極く少数である。

④ 資格取得の予定

幼稚園教諭免許、保育資格のいずれにしる資格取得を希望する者は91年が96.6%、92年が99.4%（全国調査も99.3%）と圧倒的多数ではある。しかし、92年にその内訳を調査したところ両方の資格を取得したいと答えたのは120名（67%）、幼免のみ取得希望者36名（20%）、保育資格のみ取得希望が7名（4%）、資格は取りたいが内訳に回答しなかった者16名（9%）、資格は取得しないが1名であった。

かつては卒業要件として資格取得が義務づけられていた時期もあった。しかし要件からはずしてほとんどの学生が両方の資格を取得して卒業した時代とは大きく様変わりしてきている。第7表にみるように、この1～2年の新しい傾向として、幼免は取得しないが、保育資格は取得したいという学生がぼつぼつ現れている。数人の学生は、「なぜ」ときくと将来再就職の際に保育資格の方が有利と答えた。ちなみに現2年生の保育資格のみ取得予定者は26名（14.6%）であるという。

⑤ 資格取得の理由

資格取得の目的は第8表のように「保育者として仕事がしたい」が2か年とも過半数を制しており、2位が「将来の役に立つと思う」である。その他の理由は「資格があれば就職に有利（非保育職希望）」「資格だけ取りたい」「資格をとれるだけの勉強をしたい」「実習しないと決められない」「小児病棟で働きたい」等である。（92年）

ごく少数の資格取得しない者の理由は91年、92年とも他の仕事をしたいからである。

⑥ 卒業後の進路

卒業後、保育職に就きたいと答えたのは91年、92年とも60数%、まだわからないが約30%弱、保育職には就かないと答えたのは数%である（第9表）。

大雑把に言えば、保育職希望者のうち幼稚園で働きたい者が約60%、保育所が20%余りまだ決められない慎重派が約10%、福祉施設等の希望者は少数である（第10表）。

保育職にとりくむ姿勢については「まだわからない」

学生もいるが、91年、92年とも過半数の学生が「一時やめて子どもが大きくなったらまた働きたい」といういわゆる再就職型を希望している。第2位は91年が「生涯の仕事として続けたい」、92年が「結婚するまで働きたい」であり、第3位はこれが入れ替わっている。91年と92年では職業継続型が減少し、結婚・出産退職型が増加していることになる（第11表）。本学の学生の保育職への姿勢は全国平均と比較して職業継続型が少ないのが特徴的である。

希望就職先別にみると「生涯の仕事として働きたい」という職業継続意識は、保育所希望者が最も高いが、一時中断再就職型も幼稚園希望者を越えている。ここ、1、2年の状況としてどちらか一つの資格取得に絞るとすれば、将来の再就職には幼稚園教諭免許より保育資格の方が役立つという理由（その根拠は不明だが）で保育資格の方を選択する傾向と連動しているようである。

10名程度の非保育職希望者は一般企業への就職を希望する者が多いが、なかには独自の個性的な進路を希望している学生も見受けられる。保育職を選ばない理由としては「責任が重い」「自信がない」「給与面での問題」を挙げているが、むしろ考え深い学生とも受けとめられ、共同研究Ⅲの保育職イメージと自己イメージの問題を感じさせられる。

その他の理由としては「仕事に興味がない」「好きではない」「大学に進学したい」や他の仕事、看護婦、声優、医療、英語、コンピューター関係等を希望すると回答している。

(3) 保育科志望動機と就職希望職種 (クロス集計の結果)

保育科が第1志望の学生は180名中146名（81.1%）第1志望でなかった学生は34名（18.9%）であった。

第12表は1992年度入学生の志望動機と卒業後の進路についての回答をクロスさせたものである。180名中「子どもが好き」で保育科を志望した学生は84名（46.7%）、その内幼稚園で働きたいのは34名、保育所では16名、どこかはまだ決められないが4名、施設が1名、その他の保育関係が2名、保育職希望者計57名であった。保育職かどうかまだわからないが22名、一般企業その他が5名である。

つまり子どもが好きではあるが、それがストレートに保育職を選ぶことにはならず、迷いがある学生が20数%存在し、子どもは好きだが一般企業希望も若干いるということである。また、資格取得の理由は保育職を選んだ57名中42名が保育者として仕事をしたいからだと答えて

第11表 就職希望先別の保育にとりくむ姿勢（保育職希望者） 人（％）

| 姿勢 保育職希望 | 働きたい 生涯の仕事として | 一時やめて、子どもが大きくなったらまた働きたい | 出産するまで働きたい | 結婚するまで働きたい | まだわからない | N. A. | 合計 |
|--------------|------------------|-------------------------|------------|--------------|--------------|------------|----------------|
| 幼稚園 | 2 (3.0) | 33 (50.0) | 6 (9.1) | 17 (25.8) | 8 (12.1) | | 66 (100.0) |
| 保育所 | 7 (23.3) | 16 (53.3) | 1 (3.3) | 4 (13.3) | 2 (6.7) | | 30 (100.0) |
| 施設 | | 1 (50.0) | | | 1 (50.0) | | 2 (100.0) |
| その他の 保育関係 | 1 (20.0) | 4 (80.0) | | | | | 5 (100.0) |
| 未定 | | 11 (78.6) | | | 3 (21.4) | | 14 (100.0) |
| 総数 (’92年) | 10 (8.5) | 65 (55.6) | 7 (6.0) | 21 (17.9) | 14 (12.0) | 0 | 117 (100.0) |
| 総数 (’91年) | 15 (12.2) | 66 (53.7) | 3 (2.4) | 12 (9.8) | 25 (20.3) | 2 (1.6) | 123 (100.0) |
| 全国(%) | 22.6 | 44.5 | 5.1 | 8.9 | 17.1 | 1.1 | 100.0 |

第12表 志望動機別卒業後の進路（1992年）

(人)

| | | 子どもが好き | 保育者として仕事をしたい | 将来の生活に役立つ | 自分の子どもを育てるのに役立つ | 家族にすすめられた | 先生にすすめられた | ただなんとなく | その他 | N. A. | 合計 |
|--------|---------------|--------|--------------|-----------|-----------------|-----------|-----------|---------|-----|----------|-----|
| 保育職希望 | 幼稚園 | 34 | 23 | 8 | 2 | 1 | | | | | 68 |
| | 保育所 | 16 | 9 | 2 | 2 | 1 | | | | | 30 |
| | 福祉施設 | 1 | 1 | | | | | | | | 2 |
| | 上記以外の 保育関係 | 2 | 2 | | | | | | 1 | | 5 |
| | まだわからない | 4 | 8 | 1 | | | | | 1 | | 14 |
| 未定 | まだわからない | 22 | 2 | 11 | 11 | 1 | | | 1 | | 48 |
| 非保育職希望 | 一般企業 | 3 | | 2 | 3 | | | | | | 8 |
| | その他 | 2 | | | | 1 | | | 1 | | 4 |
| 就職しない | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | 84 | 45 | 24 | 19 | 4 | | | 4 | | 180 |

注) 幼稚園就職希望者には、保育職希望がどうか迷っているが幼稚園希望の2名を含んでいる。

いる。他は資格は将来役に立つからであった。

2番目に多い志望動機は「保育者として仕事をした
い」(45名, 25%)であるが、その半数は幼稚園で働きた
いと答え、9名、20%しか保育所を希望していない。施
設が1名、保育職希望だが慎重に選びたいのが8名、児
童関係が2名で、まだ分からないは僅か2名、資格取得
の理由も全員が保育の仕事がしたいからとはっきりして
いる。

3番目は「将来役に立つ」(24名, 13.3%)であり、次
の「自分の子どもを育てるのに役立つ」(19名, 10.6%)
とともに将来の方向がまだわからない学生が多数派であ
る。一般企業希望者も2、3名づついる。資格取得の理
由も保育所就職希望の4名を除いてほとんどが将来役に
立つからであり、また、一般企業希望の5名は幼稚園教
諭免許のみで保育資格は取得しないつもりである。

このグループには気掛かりな学生がひとり存在する。
第一志望が保育科以外で「自分の子どもを育てるのに役
立つ」からと保育科に入学したものの保育職は責任が重
いので就きたくないし、自分が保育者に向いているかど
うか、どちらともいえないと感じており、かといって一
般企業その他の希望もない、将来はわからない、資格も
要らないと答えている。自信を失い、目標を喪失した学
生の姿が浮かび上がり、このような学生に対するなんら
かの対応の必要性を感じる。この学生は今回の健康度調
査では問題を感じていないグループに属しており、心身
の健康に関してはとくに自覚症状として表われてはいな
い。

残る8名は家族から勧められた4名とピアノや歌、踊
りを活かしたい者、子どもへの興味があったがいまは他
の事へ関心が移った者などである。保育職希望が2名、
まだわからないが3名、その他が2名である。

(4) 資格取得希望と希望就職種 (クロス集計の結果)

次に資格取得の予定を就職希望職種別に分類したのが
第13表である。

幼稚園教諭免許と保育資格の両方を取得したい者は
180名中120名(67%)である。36名は幼免のみを希望し、
16名はともかく資格はとるという者、保育資格のみ希望
が7名で資格は要らないが1名である。両方の取得希望
者は将来はまだわからない26名と企業その他希望の2名
以外は全員保育職希望者である。幼免のみの希望者の半
数は将来はわからないと答え、一般企業その他の希望者
11名のうち7名は幼免のみの取得を希望している。結局、
幼稚園教諭免許取得希望は172名(95.6%)、保育資格取

得希望は143名(79.4%)となる。

先に挙げた江南短期大学の場合、第1志望の学生が95
%の高率であり、入学動機のなかで「保育職に就くた
め」が52%と第1位を占め、「子どもが好き」は36%、
「子育てに役立つ」は10%にすぎない。本学とはかなり
違った就職状況の背景には志望動機の違いも存在してい
ることがわかる(第14表)。

第13表 資格取得予定別卒業後の進路
(希望の職種) (1992年)

(人)

| | | 幼・保 両方 | 幼 免のみ | 資 格は 取る | 保 母 資 格のみ | 資 格は 取ら ない | 合 計 |
|----------------------------|---------------|-----------|----------|---------------|--------------------|---------------------|--------|
| 保 育 職 希 望 | 幼 稚 園 | 47 | 11 | 10 | | | 68 |
| | 保 育 所 | 25 | | 1 | 4 | | 30 |
| | 施 設 | 2 | | | | | 2 |
| | 上記以外の 保育関係 | 5 | | | | | 5 |
| | まだわから ない | 13 | | 1 | | | 14 |
| 未 定 | まだわから ない | 26 | 18 | 2 | 2 | | 48 |
| 非 保 育 職 希 望 | 一 般 企 業 | 1 | 6 | 1 | | | 8 |
| | そ の 他 | 1 | 1 | 1 | | | 3 |
| | まだわから ない | | | | | 1 | 1 |
| 就 職 し な い | | | | | 1 | | 1 |
| 合 計 | | 120 | 36 | 16 | 7 | 1 | 180 |

第14表 幼児教育学科志望動機 (江南短大)
(1990年度)

| | |
|-----------|-------------|
| 保育職に就くため | 141名 (52%) |
| 子どもが好きだから | 97名 (36%) |
| 子育てに役立つ | 26名 (10%) |
| 入学しやすかった | 2名 (1%) |
| その他 | 4名 (2%) |
| 合 計 | 270名 (100%) |

ところで、今回の調査は入学してからか1か月以内の
意識であるが、2年生になり、授業や試験をはじめ保育
実習、教育実習等保育科の学生生活が大きな山を越える
と学生の気持ちも変化する。はからずも私たちに衝撃を

与えた卒業生となる1989年度入学生が2年生になった1990年11月に筆者の実施した調査によると、217名の入学生のうち、1年生の4月には22名(10.1%)だった保育資格非取得者、つまり幼免のみかまたは資格非取得者は2年生の後期(11月)には39名(18%)に増え、卒業時には47名(21.7%)一幼免のみ25名+非資格取得者22名一に増加している。中途退学者は10名、卒業保留者は4名である。結局、入学生の83.4%が幼稚園教諭免許を、71.9%が保育資格を取得したにとどまった。

就職については11月時点の調査で回収した139名の行方は、保育職に73名(36%)、内訳は幼稚園49名、保育所23名、施設1名であり、一般企業その他に63名(31%)、不明3名だった。その後卒業時には保育職107名(53%)、一般企業92名(45%)に決定したのである。

入学時と2年の11月では就職希望先が変更したかどうかについては、第15表に示したように「変更なし」が76名(保育職63名、一般企業13名)、「変更あり」が60名で、変更した内容は「保育職→一般企業」41名、「一般企業→保育職」6名、「保育所→幼稚園」8名、「幼稚園→保育所」1名、その他・不明7名である。保育職から企業への変更が回答者の約30%にものぼっていることに留意したい。

実際の就職活動のなかで「企業が先に決定したから」「どちらでもよいが企業が先に決定したから」などの理由で保育職を放棄した学生が24名いることもわかった。

就職先の決定に際して「実習の影響あり」と答えたのは48名、「実習の影響なし」が56名である。学生にとって実習の持つ重みは想像以上ではないかと推察する。

第15表 就職先希望の変更(入学時～2年生11月)

| | | |
|-----------------|---|-----------------------------|
| 変更なし | ・保育職(幼・保・施) ・企業 | 63名 13 |
| 変更あり | 保育職→企業 企業→保育職 幼稚園→保育園 保育園→幼稚園 その他(進学) 不明 | 41 6 1 8 4 3 |
| 回 答 数 (在籍者の64%) | | 139 |

(1989年度入学生対象の調査)

(5) 健康度調査で訴え率の高かった学生について

次に、共同研究Ⅰ・高木庸一「保育科学生に対するT

HI(東大式健康度調査)の試み」によって析出されたMC(Mental Complain)値・PC(Physical Complain)値が高位の29名の学生の回答を学生全体の数値と比較検討してみた。

まずプロフィールであるが、出身校は私立高校15名、公立高校13名で全体と大差ない。学生生活については「2年間で保育者としての知識を学びたい」を選んだ学生は全体よりも10%少なく、「大学生活をエンジョイしたい」が逆に6%多い。

志望動機はほとんど全体と同じ傾向を示しているが、全体でもごく少数の「家族から勧められて」という消極的動機が2名おり、割合としては全体よりも4.7%多い。

全員資格取得を希望しているが、全体よりも幼稚園教諭免許のみ取得希望者が4%多く、取得の理由は「保育者として仕事をしたい」が全体より11%少なく、「将来の生活に役立つ」は2%多い。

就職希望は、なぜか理由は不明だが、全体より幼稚園希望の割合が少なく、保育所希望が多い。施設希望も2名で全体より割合が高い。保育所就職希望者9名の入学志望動機は「子どもが好き」と「保育の仕事がしたい」に二分されるが、資格取得理由は「保育者として仕事がしたい」が8名であり、全体よりも保育者志向は高い傾向を示した。ただ、学生生活のおくり方については幼稚園希望者8名中7名が、「2年間で保育者としての知識を学びたい」と答えたのに対し、保育所希望者は3名のみで、「大学生活をエンジョイしたい」等が6名である。

29名の保育者適性の自己評価は全体よりも「向いている(非常に向いている+やや向いている)」が7.5%低く、「向かない」が5.5%高い。

以上のように、MC値・PC値の高い学生群は全体の傾向とは多少違っている。ただ、この群はより個別的な考察が重要と思われる。詳細な検討は機会をあらためるとして、ここでは資格取得理由の点で他の学生とは異なる次の2例のみを挙げておく。

29名のなかで「保育科だから」「保育科に入学したのだから一応資格をとらないとおかしいから」と記入した2名は幼免のみ取得希望で、志望動機も「自分の子どもを育てるのに役立つ」からだが、ひとは他にいくところがなかったとも記しており、子どもは好きではなく自分が性格的に保育職にあまり向いてないと感じており、一般企業に就職を望んでいる。もうひとりも企業希望だが、自分は保育職にやや向いていると感じている。但し理由として選んだ項目は「ピアノがよくひける」「指導力がある」「責任感が強い」で「子どもが好き」「健康だから」「明朗・活発だから」等、多数派の理由とは異なる

っている。学業成績は前期試験3科目のみではあるが、後者は上位、前者は1科目再試験だった。

(6) おわりに——調査結果の考察と今後の課題

以上のような調査結果から本学の保育科学生について明らかになった特徴をまとめておきたい。まず、最も多いタイプは「子どもが好き」というやや漠然とした動機で保育科を選び、保育科が第1志望で、将来も保育職とくに幼稚園で働く希望が高いが、生涯の仕事として選ぶより、仕事は一時やめて再就職というコースを望んでいる。結婚・出産退職型も全国平均より多い。保育職に就くには「子どもが好き」でなければならないと考えているが、全体で2割余りの学生は乳幼児の世話をしたり、遊んだ経験がない。学生生活では保育者としての知識を身につけたいが、「学生生活をエンジョイしたい」（具体的には不明）者もかなり多い。

実際の就職先決定に際しては保育職希望者であっても就職活動の時期が早い一般企業へ変更する者もかなりの数にのぼる。最近の保育所離れは保育所関係の求人が短期的に最も遅いこととも関係があるに違いない。しかし「待てない」ことはそれほど執着していないということもできよう。

ここ数年の学生の就職傾向の変化、資格取得の傾向の変化は著しく、いわば学生のタイプの多様化がすすんでいる。

今回の本学の学生に対する意識調査は冒頭に述べたような動機からおこなったものであるが、調査内容には、以上述べたほかに、保育職の捉え方、保育者として必要なこと、保育職への適否等の項目がある。それらは今回の考察のなかを含めるに至らなかったが、共同研究Ⅲの心理学的調査との関連性が高いことから、部分的にはⅢにおいて言及されている。個別的な考察とともに今後の課題としたい。

また、より多くの調査項目についてクロス集計をおこなうことによって、いっそう深い分析が可能と思われる。項目間の相関についても測定してみたい。

さらに、すでに述べたように調査項目の再検討や適切な調査項目の設定も課題である。共同研究としておこなった健康度調査や心理学的調査とあわせて今後はより具体的な学生像を捉えたいと考える。

学生の実態調査についてはこれまで多数の保育科系短大が自校の学生を対象におこなっており、保母養成協議会の研究大会、日本保育学会その他の機会に調査結果が発表されている。そのなかであって、単独校ではなく全

国的な調査について言及すれば、まず、日本私立短期大学協会の研究委員会は「保育科系短期大学学生意識調査」を継続的に実施している。1975年度の「新入生対象の予備調査」から1982年「卒業1年後の保育者対象調査」までの一連の5回にわたる調査は日本保育学会で数次にわたって報告されている。そのなかで1979年4月実施の「新入生意識調査」の第2回ともいべき調査が1991年に行われ、調査内容も1979年のものを踏襲しているため、約10年前の学生の意識と比較検討が可能である。今回の本学の意識調査もこの日短協調査から多くの示唆を得た。

また、保母養成協議会の専門委員会も最近の課題研究として『『学生生活の指導』に関する調査』（1986年）、『『学生生活の実態』に関する調査』（1987年）を発表し、1988年にはこの2つをまとめて『『学生生活の実態と指導』に関する研究—学生生活指導についての分析—』を刊行している。

いずれも、個別的な実態とともに全体のなかでの位置を把握するために役立つ貴重な研究成果である。

私たちは今後も共同研究を継続し、総合的な見地からの学生の実態把握を目途に研究をすすめたいと考えている。

参考文献・資料

- 1) 日本私立短期大学協会保育科研究委員会「保育科系短大学生意識調査報告書（平成3年4月入学生対象）」1991年。
- 2) 後藤嘉余子「短大・保育科と保育者養成について—学生の意識調査からの検討—」（東京家政大学短期大学部）全国保母養成協議会第27回研究大会論文集、28頁～29頁。
- 3) 野原由利子「江南短大幼児教育学専攻学生の進路選択とその継続状況調査にみる保育者養成上の諸課題」全国保母養成セミナー（平成2年度）分科会報告資料、1990年。
- 4) 鬼頭昭次郎「学生の変化と保母養成」（名古屋短期大学学生課）全国保母養成協議会セミナー（平成2年度）分科会報告資料、1990年。
- 5) 成田朋子『『子どもが好き』について考える』（高田短期大学保育科）、全国保母養成協議会第29回研究大会発表論文集4頁～5頁、1990年。
- 6) 全国保育協議会編「保育年報」（各年版）、全国社会福祉協議会刊。
- 7) 全国保育団体連絡会・保育研究所編「保育白書」（各年版）、草土文化社。

- 8) 福川須美「保育の危機と保育所の役割」駒沢女子短期大学研究紀要第17号, 1頁～3頁, 1984年。
- 9) 高木庸一「保育科学生に対するTHI(東大式健康指数)調査の試み」駒沢女子短期大学研究紀要第

26号。23～27頁, 1993年

- 10) 天野珠子「保育者イメージと自己イメージの調査」駒沢女子短期大学研究紀要第26号。43～49頁, 1993年。

保育科学生意識調査

実施H 年 月

おねがい

この調査は、保育科の学生の意識をとらえ、保育者養成に役立てるものです。

結果は、コンピューターによって統計的に処理されますので、個人の意見がそのまま発表されることはありません。日頃、あなたが考えていることを、ありのままにお答え下さい。

回答は、該当する番号に○印を付けて下さい。また、____、() は具体的に記入してください。

はじめに、以下について記入してください。

1 生まれた年 昭和____年生

2 出身高校

- 1 公立普通高校 2 公立その他 (____科)
3 私立普通高校 4 私立その他 (____科)
5 その他(具体的に____)

3 あなたが、幼児の頃、通っていた幼児教育機関はどこですか。1つ選んで○をつけてください。

- 1 幼稚園 2 保育所 3 保育園・幼稚園
4 行っていない
5 その他(具体的に____)

調査内容

I あなたは、保育科が第一志望でしたか。

- 1 はい
2 いいえ(第一志望は、なに科でしたか____)

II あなたが保育科を選んだ理由として、ふさわしいものを1つ選んで○をつけて下さい

- 1 子どもが好き
2 自分の子どもを育てるのに役立つ
3 資格を取っておけば将来の生活に役立つ
4 保育者として仕事をしたい
5 先生にすすめられた
6 家族にすすめられた
7 友人にすすめられた
8 ただなんとなく
9 その他(具体的に____)

III あなたは、資格(幼稚園教諭免許状、保母資格)を取りますか。

- 1 はい(幼免 保母資格) 2 いいえ
3 取れれば取りたい

A 1に○をつけた方、資格をとる理由は次のどれですか。

1つ選んで○をつけて下さい。

- 1 保育者として仕事をしたい。
2 将来の生活に役立つと思う。
3 その他(具体的に____)

B 2に○をつけた方、資格をとらない理由は次のどれですか。1つ選んで○をつけて下さい。

- 1 保育職(幼稚園教諭・保母)に対する興味が無い。
2 他の仕事をしたい。
3 その他(具体的に____)

IV あなたは、卒業後、保育者として働きますか。

- 1 はい 2 いいえ 3 まだわからない

A 1に○をつけた方に

1 あなたは、どこで働きたいですか。1つ選んで○をつけてください。

- 1 幼稚園 2 保育所 3 福祉施設
4 1～3以外の保育関係の職場
5 まだわからない

2 あなたは、保育という仕事をどのくらい続けたいですか。1つ選んで○をつけてください。

- 1 生涯の仕事として続けたい
2 結婚するまで働きたい
3 出産するまで働きたい
4 一時やめて、子どもが大きくなったらまた働きたい
5 まだわからない

B 2に○をつけた方に

1 あなたは、どこで働きたいですか。1つ選んで○をつけてください。

- 1 一般企業 2 官公庁
3 その他(____)
4 就職しない

2 あなたが、保育の仕事を選ばない理由は何ですか。1つ選んで○をつけてください。

- 1 自信がない
2 給与面での問題
3 責任が重い
4 勤務時間の問題
5 その他(具体的に____)

V あなたは、保育者という職業をどう思いますか。ふさわしいと思われるものを3つ選んで○をつけてください。

- 1 女性にふさわしい
- 2 心身とも健康でなければつとまらない
- 3 地味であまりめだたない
- 4 重要で社会的に認められている
- 5 向上心・研究心がなければつとまらない
- 6 子どもが好きでなければつとまらない
- 7 対人関係が難しい
- 8 高度な専門的技術が要求される
- 9 しっかりした人生観・教育観がなければできない
- 10 重要だが、社会的に認められていない

VI 保育者として必要だと思うことを、3つ選んで○をつけてください。

- 1 専門的な知識・技術がある
- 2 健康である
- 3 子どもを理解する
- 4 子どもが好きである
- 5 熱意（意欲）がある
- 6 責任感が強い
- 7 協調性がある
- 8 明朗・活発である
- 9 円満な人である
- 10 研究心がある
- 11 創造力に富んでいる
- 12 指導力がある
- 13 根気強い
- 14 ピアノがよくひける
- 15 社会的常識がある
- 16 その他（具体的に_____）

VII あなたは、自分が保育者にむいていていると思いますか。

1つ選んで○をつけてください。

- 1 非常にむいている
- 2 ややむいている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりむいていない
- 5 全くむいていない

A 1と2に○をつけた方、保育者にむいていていると思う理由を、3つ選んで○をつけてください。

- 1 専門的な知識・技術がある
- 2 健康である
- 3 子どもを理解する
- 4 子どもが好きである
- 5 熱意（意欲）がある
- 6 責任感が強い
- 7 協調性がある
- 8 明朗・活発である
- 9 円満な人である
- 10 研究心がある
- 11 創造力に富んでいる
- 12 指導力がある
- 13 根気強い
- 14 ピアノがよくひける
- 15 社会的常識がある
- 16 その他（具体的に_____）

B 4と5に○をつけた方、保育者にむいていないと思う理由を、1つ選んで○をつけてください。

- 1 自信がない
- 2 子どもが好きではない
- 3 保育に対する興味がない
- 4 性格的にむいていない
- 5 体が丈夫でない
- 6 その他（具体的に_____）

VIII その他

1 あなたは、直接、乳幼児の世話をしたり、遊んだりしたことがありますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

2 あなたは、ボランティア、アルバイト、その他の機会に障害児（者）と交流した経験がありますか。

- 1 はい（どんな経験_____）
- 2 いいえ

3 あなたは、保育園や幼稚園で、障害児と健常児と一緒に保育することに賛成ですか

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 どちらともいえない

4 つぎの（ ）に自由に記述して、文章を完成させてください。

- 1 障害児は一般的に（_____）
- 2 障害をもつ子どもが健常な子どもと一緒にいるのを見かけると、
わたしは（_____）
- 3 障害児（者）の直面する最も大きな障害は
（_____）

5 あなたは、いままでに家事（炊事、洗濯、掃除など）の分担をしたことがありますか

- 1 はい
- 2 いいえ

6 あなたは、これからの2年間、どのような学生生活をおくりたいですか。1つ選んで○をつけてください。

- 1 2年間で保育者としての知識を学びたい。
- 2 大学生としての教養を深めたい。
- 3 クラブ・サークル活動をしたい。
- 4 大学生活をエンジョイしたい。
- 5 特に考えてない。
- 6 その他（具体的に_____）